

令和5年度 宮崎県立都城泉ヶ丘高等学校(全日制)【自己評価及び学校関係者評価】

《 4段階評価 4:期待以上 3:ほぼ期待通り 2:やや期待を下回る 1:改善を要する 》

教育目標		計画(Plan)	実行(Do)	評価(Check)	改善(Action)	学校関係者評価		
重点目標	評価項目	重点努力目標(評価指標)	方策・手立て(数値目標)	学校自己評価	総合	結果と考察・改善	評価	評価コメント (評価できる点、改善して欲しい点)
(1) 生徒一人一人の学力を最大限に伸ばし進路実現を図る	基礎・基本の定着と学力向上	ア 面白くするために生徒が感じる双方向的な授業の構築と学びに向かう姿勢の確立(リサーチ・シンキング)	(ア)基礎学力の向上 教科の目標に達していない生徒への支援の実施(個別、補充指導) (イ)自宅学習時間調査の実施(予習・復習・課題の研究・自走化の推進・学習履歴のICT活用による蓄積と活用) (ウ)教育活動におけるICT機器の効果的な活用 ・教育活動における情報機器の活用促進とメンテナンスの実践 ・全職員による適切な情報モラルを醸成するための啓発	2.0	2.8	・調査前指導は、基礎基本の徹底が目的であるが、同じ生徒が指導を受けている現状があり、内容の改善を検討していく必要がある。自走化を促していくための3年間、または中学校からの6年間の学習への取組についての流れなど、学校としての方向を立てていく必要を感じた。 ・Classiを活用した自宅学習時間の記録について、記録し振り返りすることで、生徒の学習習慣の定着に繋がっていくので、調査頻度や期間などを見直す必要がある。	3.0	[学校評議員] ・普通科・理数科問わず、難関大学への進路実績は評価すべき点である。 ・双方向的な授業の構築は難しいがそれに近づく努力が必要でしよう。分かる授業というより生徒がいかに興味を持つことができるか。 ・不可能と思われるが中学生の入学定数を高校生人数と一致させて、6年間を通しての授業の構築することを考えると素晴らしい。 ・学校HPのトップにある校舎の写真を現在のきれいな状態の写真と差し替えるとの良いのではないだろうか。 ・SSH指定校となったら、しっかりとした環境整備が必要で。 [学校関係者] ・「We are 泉ヶ丘」の発行は大変、役立ち重宝している。 ・高校ホームページは、部活動等の結果が随時更新され大変良いと思う。また、重要なお知らせ等もClassiで届くので安心である。 ・SSH採択決定おめでとうございます。今後、学校の指導等に大きく期待しています ・昨年度、1年時のトップクラスの設置がなかったことの善し悪しが知りたい。
		イ 指導力向上への支援(リサーチ)	(ア)研究授業・授業公開の工夫と改善 (イ)3年間及び6年間を見通した指導スタイルの工夫と改善 (ウ)研究推進部や教科会との連携 (エ)ICTの活用を含んだ授業研究と教科研修会の充実 (オ)自立した学習者の育成や教師の指導改善につながる授業評価の工夫と改善	3.0		・分かる授業に向けた授業改善を全職員が意識していくことが改善につながる。研究推進部との連携など、もっと改善して授業改善に向けた積極的な取り組みが必要となる。 ・ICT機器を活用して授業展開されている先生が増えてきたと感じる。		
		ウ カリキュラム・マネジメントの充実(マネジメント)	(ア)行事の見直し (イ)PDCAサイクルの確立による教育課程の検討・改善 (ウ)新教育課程に対応する評価の運用と検討・改善	3.0		・「We are 泉ヶ丘」の発行により、計画や目標など全体で共有できるようになった。行事の簡素化という点で改善の余地があるのではないだろうか。 ・評価の運用をさらに考える必要がある。		
		エ 情報発信・情報管理(コミュニケーション)	(ア)学校案内・学校ホームページの充実 (イ)中学校との連携 (ウ)各校務分掌と連携・分担、効率的なデータ整理 (エ)既存システムに改良を加え、学校のニーズに応じたデータ整理 (オ)生徒の成績に関するデータ処理の推進 (カ)校務支援システムの運用 (キ)グループウェアを活用することによる連携強化とペーパーレス化の実現	3.0		・ホームページやClassiをしっかりと活用できていた。 ・SSH申請に向けて、内容の改善や探究ページの充実など今後課題となる部分を改善していく必要がある。 ・中学校訪問に際して、パワーポイントや資料の準備については、学校の教育方針などを含めて作成したが、パンフレットやポスターとの連動性も考えながら早い段階から作成に入る必要がある。		
		オ 分掌内や関係分掌との連携(チームワーク)	(ア)他校務分掌との連携・分担の推進 (イ)附属中学校、定時制との連携をさらに深め、一つの学校としての一体的な体制構築 (ウ)分掌内での分担を行い、業務の偏りを無くし、個人の負担軽減	3.0		・時間割については、各部(研究推進部や生徒指導部、進路指導部、渉外図書部)の行事と合わせて特編授業という形で連携できた。早い段階でお互いに相談し、全体に影響が出ないような計画実施できたことが良かったと考える。 ・教務内の業務の偏りについては、それぞれの振り返りを元に検証し、バランスの良い業務分担を図っていく。		
	進路指導の充実	ア 進路意識の高揚(リサーチ・シンキング・コミュニケーション)	(ア)進路目標の早期決定を指導する (イ)職業観、在り方・生き方等を指導する (ウ)大学出前講座、職業講話、各種講演会等を実施する	3.0	2.6	・模試や希望進路に向けた目標設定を行わせることができた。 ・類型登録の時期に朝課外を中止して二者面談を実施した。今年度は面談の時間確保を意識して取り組んだ。 ・大学出前講座や職業講話の充実を図ることができた。	3.0	[学校評議員] ・4～5月の早い時期から大学からの訪問を受け入れ、進路決定に活用して欲しい。地方出身の生徒となるので、偏差値の高い者の陰の進路先も大事であるが、性格も考慮して進路先を決定する取り組みがあっても良いかと感じた。 ・進路指導に関しては家庭環境によって決まっている生徒がいるとは思いますが、様々な職業等を学べる機会を作るべきである。将来の進路がはっきりしてくれば勉強の意欲は向上すると思われる。 ・目標を設定し、そこから逆算して計画を立て、主体的に行動する事は社会に出てからも求められることだと思います。その点にぜひ注力していただきたいと思っています。 [学校関係者] ・先生方が面談を通して進路指導や目標設定してくださるのは、大変ありがたいと感じる。 ・大学出前講座や職業講話等は大変良いと思う。今後も継続して欲しい。
		イ 進路指導計画(マネジメント・シンキング・チームワーク)	(ア)3年間、および中高6年間を見通した進路指導計画を策定する (イ)研究推進部と連携し、「総合的な探究の時間」の効果的な活用を図る (ウ)難関大学、学部を志望する生徒の指導を実践する (エ)「いずみGS」を意識した指導を行い、資質・能力の育成を図る (オ)高大接続に伴う入試制度改革に対応した進路指導を計画・実践する	2.0		・進路学習の機会を設けたり、進路指導の充実を図ることが課題である。大学や業者からの調査・アンケート等(生徒向け)への対応する時間もなかなか確保できず、担任の先生・学年主任に負担をかけている。 ・スタディサポートの活用やキャリアパスポートなどを面談等に活用していく手立てが必要である。		
		ウ 進路資料の収集と提供(リサーチ・シンキング・マネジメント)	(ア)テスト成績の分析、評価をしっかりと行い、授業・指導の改善にいかす (イ)進路便り「汲泉」等、役立つ進路情報を生徒・保護者に提供する	3.0		・実力テストの成績処理について、実力テストのあり方も含めた議論が必要である。 ・3年進路判定会(支援会)の資料をより充実させていくことが必要である。 ・第1回学力検討会は9月に実施。第2回の学力検討会は12月予定。 ・職員研修の実施を検討。		
		エ 職員研修の充実(リサーチ・マネジメント)	(ア)実力考査、校外模試の充実を図る (イ)学力検討会、判定会の充実を図る	3.0		・進路学習の時間をどう確保するかが課題である。 ・進路実現に向け、生徒が自分事として進路目標を明確にし、自らを過大(小)評価することなく、現実を捉え、目標と現実との距離を客観的に把握して、主体的に成長していけるような進路支援を検討する。		
		オ その他(リサーチ・シンキング)	(ア)「進路の手引き」「大学入学共通テストを受けて」「合格体験記」等を「総合的な探究の時間」と連携し活用する (イ)内規にもとづき、推薦入試等の基本方針に対する共通理解をもつ	2.0		・コロナにより開催が見送られていたFITSを再開できた。 ・人権学習は、適宜見直しを図りながら柔軟に実施できた。 ・県下一斉いじめアンケートで、今年度になり「いじめられたことがある」が1件あったが、職員に相談し、いじめは続いていると確認された。 ・いじめの疑いや対人トラブルの報告があった際は、今後も担任・学年主任・管理職と速やかに対処していきたい。 ・生徒・保護者・職員ともスクールカウンセラーの積極的な活用ができた。		
(32) 人権意識の向上と生徒指導	規範意識の向上と生徒指導	ア 人権意識の育成【対人基礎力(親和力・協働力・統率力)の育成を目指す】	(ア)FITS(フレッシュ・イミガ・カ・トレーニング・システム)、人権学習、教育相談及び面談週間の充実 (イ)いじめの未然防止・早期発見 (ウ)教育相談だよりの発行 (エ)生徒理解を深めるため、職員研修を実施	3.0	3.3	・挨拶は、改善の余地有り。率先垂範。 ・校内での盗難や器物損壊が起きた際は、速やかに組織で対応できた。 ・交通事故が起きた際の警察への届出の徹底。自転車通学生の接触事故が1/28時点で6件(対自動車2、対自転車4)あったが警察への届出が2件のみだった。 ・交通安全委員会による、自動車送迎マナーアップ運動に一定の効果がみられた。 ・コロナ禍以前の行事運営の経験がない中で、生徒も職員も大いに奮闘した。 ・過去の取り組みや慣例(伝統)に囚われすぎることなく、生徒たちの「やってみよう」を汲み上げ、職員が支援する土壌作りをしてきた。 ・運動部も文化部も、文武運動に相応しい取り組みと成果・成長が見られた。 ・いじめ不登校対策委員会を通して、中高を合わせた生徒の情報共有が出来ている。情報交換会にとどまらず、諸問題について協議検討・提案もできている。 ・校則や制服の見直しなど、今後も附属中学校と連携を取りながら取り組んでいきたい。 ・制服等の実態調査の結果概要を、12月中に保護者に発信したい。	3.3	[学校評議員] ・実際の訪問時、生徒からの挨拶が素晴らしい。服装も徹底していた。 ・FITSは知らないが、いじめ・性同一性障害、精神的・身体的障害など、身近な課題は年に1回でも良いので、セミナー形式で啓発すべきであろうと考えます。 ・挨拶は大切な事であると思います。引き続き率先垂範をよろしく願います。 ・いじめ不登校対策ができています。 [学校関係者] ・都泉祭の生徒主体の開催を見て、とても頼もしく思う。生徒会が中心となり、皆が頑張っている姿が印象的であった。良さ先輩方の伝統が継続して欲しい。
		イ 規範意識の育成【対自己基礎力(感情抑制力・自信創出力・行動持続力)の育成を目指す】	(ア)日常的なあいさつ・服装容儀指導の実施 (イ)問題行動の未然防止、問題行動への迅速かつ組織的対応 (ウ)交通安全の意識向上 (エ)集団規律やルール遵守の態度育成	3.0				
		ウ 生徒会総務の育成及び部活動の活性化【対課題基礎力(課題発見力・計画立案力・実践力)の育成を目指す】	(ア)生徒会総務及び各種委員会の活性化 (イ)生徒会行事の充実(生徒実行委員会の活性化) (ウ)心身共に健全な部活動生の育成	4.0				
		エ 情報の共有化と連携の強化	(ア)学年会との緊密な情報交換(生徒理解の深化と情報共有) (イ)附属中学校との連携を密にし、6年間を見据えた生徒指導を構築する (ウ)保護者への迅速かつ丁寧な対応 (エ)地域及び関係機関との連携	3.0				
		オ 探究活動全般の計画立案・実施・分析【探究活動】	(ア)各分掌、委員会等と連携し、教育目標実現に向けた各種調整の実施 (イ)職員研修の企画・運営・調整	3.0				
(4) 広報活動を充実させる	学校デザインの継続的検討	ア 教育活動全般の企画・調整【カリキュラム・マネジメント】	(ア)各教科代表者との連携による情報共有と改善に向けた指針の確認・実施 (イ)研究授業・授業相互参観等の企画及び事後合評会の企画 (ウ)新学習指導要領施行に向けた観点別評価の実施と準備 (エ)教科横断的・探究的授業の推進	3.0	3.2	・SSH申請に向けた新教育課程の改編と、学校改革「いずみvision」の提示ができた。運用後の細やかかつ柔軟な調整等が必要となる。 ・例年以上に教科代表者会の活用ができた。研究授業でもチャレンジングな取組もでき、次年度に繋がるものとなった。教科横断について、もっと意識が高まるとよい。観点別評価についてはさらなる検討が必要。「C」評価の多さが気になる。	3.2	[学校評議員] ・SSH申請は評価できる。今後のことを考えて、SSHのアドバイザー経験のある宮崎大学教員と意見交換してはどうか。 ・各分野での連携によって各企画の達成あるいは推進されており、さらなる取り組みを期待したい。民間の学習塾との部分的な活用によって生徒の自己評価を試みることを、さらに頻度をあげること達成する。 ・SSHへの取組は素晴らしいと思います。今後に大いに期待しております。 [学校関係者] ・探究活動の成果発表会は外部・保護者が見ることができないのか、生徒が一年かけて取り組んだことを、保護者も知りたいので是非、発表の場を外部にも広げて欲しい。
		イ 授業改善・授業改革に係る企画・分析【授業改善】	(ア)生徒の伸長を図るための自己評価アンケートの実施・計画・分析 (イ)外部テスト(河合塾「学びみらいPASS」)を活用した客観的評価の実施・分析	3.0		・面談シートを全職員へアナウンスできた。河合塾と連携し、担任が必要とするデータの効率的な発信を共同で検討していきたい。今後は科学的スキルの向上を図るための手段の開発が必要。		
		ウ 汎用的能力(シニエック・スキル)育成のための活動計画立案・運営・分析【いずみGS】	(ア)科学技術人材育成に向けた企画・実施・分析及び申請(SSH申請) (イ)先進校視察及び情報提供 (ウ)中学校とのさらなる連携や理系分野に係る教育活動充実のための計画立案 (エ)科学系部活動充実のための支援 (オ)MSEC(みやざきSDGs教育コンソーシアム)との連携	4.0		・SSH申請に向け、抜本的改革を計画。教育課程では「文理融合」「教養主義」のもと改革、探究活動・授業改善については「体験型」授業や「教科横断型」授業により、科学的リテラシーや科学的思考力を身につけさせるプログラムを次年度から実施予定。全体の共通理解が必要。		
		エ 「科学技術人材育成校」としての新規プログラムの計画立案・実施・分析【SSH・MSEC関連】	(ア)地域企業・自治体・他の教育機関との連携・調整 (イ)「総合的な探究の時間」の企画・運営・分析 (ウ)校外探究活動の案内及び生徒・職員参加に係る調整	3.0		・普通科探究活動は充実してきた。加えて外部の認知も増したことで、校外活動に参加する機会も多くなった。都城市の企画への採用、パネラーとしての参加依頼、新モンゴル高専とのオンライン交流等が挙げられる。		
		オ 探究活動全般の計画立案・実施・分析【探究活動】	(ア)Google for Educationの効果的な活用法の検討と運用・分析 (イ)各種デジタルアンケートの実施及び分析 (ウ)各種教育活動の評価規準の策定	3.0		・現段階では未開発。進捗データや成績データからの分析を行い、プログラム評価を実施する。コンピテンシー伸長は河合塾で、リテラシー伸長に関しての開発も必須となる。		
		カ 教育プログラムの評価体制の確立【評価】						